

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた幼保小の円滑な接続に向けて

新得町立新得幼稚園 学級数3 (園長 鈴木 貞行)

I 取組の概要

本園では、地域の実情に応じ、町内3地区（新得地区・屈足地区・トムラウシ地区）の各園、保育所、小学校との連携を推進するなど、小規模のメリットを生かし、組織体制の強化やアプローチプログラムの共有、就学に向けたサポートシートの作成などを通して、創意工夫を図った教育活動の質の向上に努めている。

II 実践の概要

1 幼保小連携の推進に向け組織体制の強化

本町では、新得町教育委員会学校教育課が幼保小連携を推進するコーディネーターとして中核を担うとともに、令和3年7月に発足した「新得町幼保・小連携協議会」により組織体制を強化し、全町的な取組の推進を図っている。

本協議会での方針の柱を受け、上記3地区の各ブロック推進会議において、地域の実情に応じた特色ある取組を進めている。本園の所属する新得ブロックにおいては、「交流部会」、「研修部会」が中心となり、子ども同士の交流会や教育課程の見直し、支援体制の引継ぎを行っている。



【新得ブロック幼保・小連携協議会の様子】

2 幼保の連携を図るアプローチカリキュラム（新得町スタンダード）の共有

本町では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を、「生活する力の芽・学ぶ力の芽・人とかかわる力の芽」の「3つの芽」として具体的に設定し「新得町アプローチカリキュラム」を作成している。また、幼稚園と保育所が5歳児のカリキュラムを共有することにより、共通の視点で教育活動を推進し、小学校との円滑な接続を図っている。本園では、小学校教員が保育参観する際、保育者が、遊びの意味や体験している学び、資質・能力等について、カリキュラムに示された各項目と関連付けて説明し、学びの連続性を見据えた子どもの姿を共有することを心掛けている。

5領域		年長Ⅲ期(9~12月)
健康	生活する力の芽	・生活に必要なまじりや習慣を確認しながら行動する ・友達とルールや約束について話し合いながら、遊びを進める楽しさを味わう
	人間関係の芽	・季節の変化に付き、自然物を使って遊ぶ ・食べ物と体の関係に興味関心をもって、友達と一緒に食べる楽しさを味わう
学ぶ力の芽	環境	・秋から冬の遊びを思い切り楽しみ、興味や関心を深める ・絵本などを通して、生活の中で言葉の楽しさに気付く ・感じたこと、想像したこと、感動したことなどを話さそう
	環境	・友達とイメージを共有し、動きや言葉、音、歌などで表現し楽しんで遊ぶ楽しさを味わう

【新得町アプローチカリキュラム】（一部抜粋）

3 スタートカリキュラム及び就学に向けたサポートシートの作成

今年度、新得ブロックにおいて、就学前教育や保育、小学校教育に関する研修を重ね、子どもの健やかな育ちを願う方向性と滑らかな接続の重要性を再確認した。また、スタートカリキュラムの見直しに当たり、アプローチカリキュラムの「3つの芽」の後に育てる力として「生活する力・学ぶ力・人とかかわる力」を位置付け、小学校教育への接続の在り方について、幼保小の共通認識を深めた。なお、本園においては、円滑な引継ぎに資する資料として、顔写真と5歳児の具体の姿について記載した就学に向けたサポートシートを作成し、小学校職員の施設訪問や交流の際に効果的に活用している。

III 成果 (○) と課題 (●)

- 本町内でアプローチカリキュラムを共有したことにより、小学校入学時までに育てたい力を明確にした教育活動が推進されるとともに、スタートカリキュラムとの接続を図ることで育ちの連続性を系統的に捉えながら小学校との連携を図ることができた。
- 教育委員会のコーディネーターを中核とし、本町の実態や各園及び学校の実態に応じた連携を推進するとともに、新得町全町教育推進会議において「すこやか子育て」、「家庭学習の手引教育ガイド」を効果的に活用し、保護者や地域住民に対し取組内容を発信することができた。
- 小学校教育への円滑な接続をさらに推進するため、発達や学びの連続性を踏まえた指導内容・指導方法について園内研修の質を高めるとともに、保育・授業参観の回数や、子ども同士の交流の機会を増やすなど、連携を更に強化する必要がある。

育成する資質・能力を踏まえた幼小連携の充実に向けた取組

羅臼町立春松幼稚園 学級数3 (園長 高原 美樹)

I 本実践の概要

「遊びの中での学び」である幼児教育と「各教科等の授業を通した学び」である小学校教育には違いがあるものの、教育目標が連続性・一貫性をもって構成されていることについて共通理解を図ることが重要である。そのため、幼小連携をより一層充実させることを目的とし、本園は、羅臼町立春松小学校と一体型の施設であることを生かした計画的な体制整備、幼小合同研修会の実施、引継ぎの充実を図った。

II 本実践の取組

1 計画的な幼小連携のための体制整備

教務主任を窓口とした打合せを、年間を通して定期的に行い、幼稚園と小学校の全教職員が参加する合同研修会や教育課程に位置付いている幼児と児童の交流の日程を決定するとともに、幼児教育、小学校教育それぞれの視点から課題を共有した。



【打合せを行う教務担当教諭】

2 幼小合同研修会の実施

学習評価について理解を深める目的で、幼稚園と小学校の全教職員が集まり、幼小合同研修会を実施し、第1学年の生活科の授業を構想した。

根室教育局の指導主事から「幼稚園と小学校の評価」に関する説明を受けた後、ワークショップ型研修において、幼児の姿の事例から、見取りや援助の在り方について理解を深めた。



【幼小合同研修会に参加する教職員】

3 引継ぎの充実

指導要録を活用した引継ぎだけではなく、幼稚園教育で得た経験を生かすことができるよう、より効果的な引継ぎを目指すことを目的に、いつでも保育を参観できるようにした。

特に3学期は、5歳児のクラスに小学校教諭も加わり、一緒に体を動かしたり、歌ったりしながら、幼児の実態を捉えることができるようにした。その上で、個別の幼児について情報を共有し、小学校教育の視点を踏まえ、独自の引継ぎシートを作成し、引継ぎの充実を図った。

R3年度 春松幼稚園 引継ぎシート	名前
幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿と資質・能力の関連	100の姿の育ち
①健康な心と体	主に関連する教科
(知) 自ら健康で安全な生活をつくり出す。	
(思) 見過しをもって行動する。	学校行事 特別活動
(人) 充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせる。	体育
②自立心	
(知) しなげなければならないことを自覚する。	
(思) 自分の力で行うために考えたり、工夫したりする。	学校行事 特別活動
(人) 諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動する。	
③協同性	
(知) 互いの思いや考えなどを共有する。	
(思) 共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりする。	学校行事 特別活動
(人) 充実感をもってやり遂げる。	
④道徳性・規範意識の芽生え	
(知) してよいことや悪いことが分かる。さまりを守る必要性が分かる。	
(思) 自分の行動を振り返ったり、相手の立場に立つて行動する。	生活 国語 道徳
(人) 友達の気持ちに共感する。自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付ける。	

【独自の引継ぎシート (一部抜粋)】

III 実践の成果 (○) と課題 (●)

- 年間を通した定期的な打合せや研修の実施、独自の引継ぎシートを活用した引継ぎの充実を図ったことにより、幼稚園と小学校において、幼児児童の実態や目指す子どもの姿、保育や指導の在り方について、共通理解を図ることができた。
- 幼小の教諭が合同研修会を通して「幼稚園と小学校の評価」について理解を深めたことにより、公開保育や授業参観において、保育や指導の質の向上につなげる視点から、幼児や児童の姿を捉えることができるようになった。
- これまでの取組等を評価し、幼児児童の資質・能力の育成に向けて、計画的・継続的な幼小連携の在り方を考えるとともに、保育や指導の質の向上を図る取組を改善・充実する必要がある。

幼稚園と小学校の円滑な接続について

羅臼町立春松小学校 学級数9 (校長 藤 吉 桂 子)

I 本実践の概要

本校では、同一施設内の春松幼稚園と連携し、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を目指し、幼稚園と小学校が合同で「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を手がかりに幼児児童の姿を共有した上で、スタートカリキュラムを作成している。さらに、**幼小担当者会議**を実施し、幼児児童の発達に応じたスタートカリキュラムになっているか検証するとともに、**幼小合同授業づくり研修会**で生活科の授業づくりを行うなど、円滑な接続に向けた取組を推進した。

II 本実践の内容

1 幼小合同でスタートカリキュラムを作成・検証

参観を通じて幼児児童の実態を把握し、幼児児童の成長を検証した上で、幼稚園と小学校の円滑な接続に資するスタートカリキュラムを幼小合同で作成した。スタートカリキュラムには、「幼児期に育ってほしい10の姿」が小学校段階のどの場面につながるのかを明記し、目指す子どもの姿を共有できるようにしている。また、スタートカリキュラムの成果と課題について短期的な検証を6月に、長期的な検証を12月に位置付け、改善を図っている。



【合同で作成したスタートカリキュラムの一部】

2 協働した授業づくり

幼児期の教育を通して育まれてきた資質・能力が、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、幼稚園と小学校の教諭が相互に対話を重ね、第1学年の生活科「きせつと なかよし あき」の指導計画を作成した。また、授業の展開、評価規準や評価方法について検討し、指導案を作成するとともに、公開授業後の研究協議において交流を行い、「幼児期に育ってほしい10の姿」を踏まえた指導の改善を図った。



【幼小合同授業づくり研修会の研究協議の様子】

3 年間を通じた交流・連携の実施

本校では幼小連携・接続の取組を年間計画に位置付けており、毎月1回の情報交換のほか、生徒指導情報交換会において、幼児の様子を伝えたり、養護教諭が幼稚園の給食の様子を参観し、小学校段階の給食指導の在り方を検討したりするなど、様々な場面で幼小連携を図っている。

また、**冬休み明け**には、5歳児のクラスに小学校教諭が**出向き**、一緒に体を動かしたり、歌を歌ったりするなどの交流を行っている。幼児は交流後、「とても楽しかった」「小学校の先生が優しくそうでよかった」等の感想をもつなど、小学校へ安心して入学できる環境づくりにつながっている。



【幼児と小学校教諭の交流】

III 本実践の成果と課題 (成果：○、課題：●)

- 小学校教諭が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について理解を深めたことにより、幼児が身に付けた力を踏まえた指導計画となるよう見直し・改善を進めたり、指導に生かしたりするなど、幼稚園と小学校における教育課程の円滑な接続につなげることができた。
- 小学校教諭が、幼稚園の様子を見学したり、遊びに参加したりしたことにより、入学する幼児が安心して学べる環境を整えることができた。
- 幼稚園と小学校の円滑な接続の改善・充実に向けて、取組を幼児児童の姿で評価し、スタートカリキュラムを含めた年間計画を見直す必要がある。